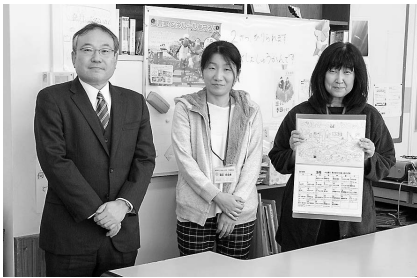


# 第32回ベルマーク便りコンクール 入賞校を訪ねて



**優秀賞**

大阪府摂津市立別府小学校(谷田校長、515人)のベルマーク便りは、2013年まで5年間読書サポーターを務めた金本尚美さん(写真右端)が発行しています。5年ぶりの3度目の優秀賞です。1年365日を「〇〇の日」と記念日にし、ベルマークに関連づけたカレンダーにイラストを付け、ベルマーク商品や活動させた昔話14編も創作しました。発想力とベルマークの知識の深さ、読ませる工夫が高く評価されました。

ベルマークに熱心に取り組むようになったきっかけは、三男が通う幼稚園でベルマーク委員をしていた06年に読んだベルマーク新聞の記事です。中越地震で被災した新潟県山古志小へ財団が温風機を贈ったという内容でした。「ベ

## 優秀賞

## 摂津市立別府小学校

「ベルマーク便り」は、収集時期や作業日の連絡、集まった点数、買った商品、マークを集めてくれた保護者と子どもたちに対する感謝を掲載しています。コンクールの入賞校を訪ねると、楽しく、無理せずに発行を続ける工夫に満ちていました。



**優秀賞**

江別市立いずみ野小学校(中川幹彦校長、161人)では、ボランティアの「ベルマーククラブ」が活動しています。10年前には行っていたPTAの学校支援や趣味のサークルが残っている数少ない団体の一つです。

現メンバーは15人。代表の中園さつきさんは、「以前はパワフルな会長を中心にたくさんの方々が集まっていた。今は無理をしない、を第一にしています」と言います。主要メンバーがごっそりと抜けた4年前から、「なぐさな」で欲しいと学校から頼まれ、代表を引き受けました。

マークを入れるベクトルを児童に渡し、メンバーやPTAの「1人1活動」の保護者が自宅で作業します。学校に集まるのは年2回の「大集計」の時くらい。

## 優秀賞

## 江別市立いずみ野小学校

## 「無理しない」と学校作業は年2日

「意識が高いメンバーばかりで、ほほノミス」と中園さんも感じています。メンバーは「数えたり、切ったりする作業が好き」と言い、「少ないと、これだけ？」と担任の先生に文句を言いたくなる会員や児童への連絡は年7回発行する「ベルマーク新聞」です。

「ベルマーク新聞」は年7回発行する「ベルマーク新聞」です。すよ。「目指せ、全員提出」と内容が明確です。回収期間や集得点といったデータは大きな字に縦や横読みもして、分かりやすく、字自体も大きめのバランスもよく、独自キャラクター「べるん」も親しみやすさに役立っています。

担当の大日向美佳さんは5年目です。「1人1活動」に関わり、「会社で事務の仕事をしていて、パソコンが使える」と任せました。「1年間の手探り」から2年連続の佳作をへて、優秀賞に輝きました。

「無理なく見てもらうことが大切。興味がないとスルーされるので、パッと見て、目に留まるように工夫しています」と言います。時期ごとに伝える内容が同じで、毎年似た紙面にならないようにするに苦労する、と言います。

「PTAの了解を得て、図書室に回収箱を置いたのが10年。ロコモで子どもたちが次々とマークを持って来て、企業別の仕分けもやってくれるようになりました。点数別の仕分けと集計、発送は金本さんの担当です。毎年1万5千点以上のマークが集まり、図書室の本の購入に充ててきました。」

金本さんが同校を去った後も後任の橋本奈保美さん(写真中央)の協力と児童との共同作業は続いています。年一回、夏休みにマークを回収し、結果をベルマーク便りに知らせます。今年は過去最高の2万3100点が集まったことに力を得て、1年中見てもらえるカレンダー作りにも挑戦しました。ベルマークネタを探すが大変で、完成まで約1週間かかりました。「ベル・ブック」の名でツイッターやブログでもベルマークをPRしています。ベルマーク商品でおせち料理を作ったり、台紙やテープを使わないマーク集計法を紹介したり、多彩な内容です。

「ベルマーク集めはしんどいと感じている人に、楽しんでもらえるように気づいてほしい。子どもが主体的に関われる社会貢献を盛り上げたい、その思いもあり、小さなベルマークは人々、社会をつなぐいくつではないか、そんな気がしています。」

## 毎日ベルに関連づけてカレンダー

「ベルマークは面倒」と思っていたが、子どもたちの笑顔の写真を見て、世の中に役立つという実感がわきました。

PTAの了解を得て、図書室に回収箱を置いたのが10年。ロコモで子どもたちが次々とマークを持って来て、企業別の仕分けもやってくれるようになりました。点数別の仕分けと集計、発送は金本さんの担当です。毎年1万5千点以上のマークが集まり、図書室の本の購入に充ててきました。

金本さんが同校を去った後も後任の橋本奈保美さん(写真中央)の協力と児童との共同作業は続いています。年一回、夏休みにマークを回収し、結果をベルマーク便りに知らせます。今年は過去最高の2万3100点が集まったことに力を得て、1年中見てもらえるカレンダー作りにも挑戦しました。ベルマークネタを探すが大変で、完成まで約1週間かかりました。「ベル・ブック」の名でツイッターやブログでもベルマークをPRしています。ベルマーク商品でおせち料理を作ったり、台紙やテープを使わないマーク集計法を紹介したり、多彩な内容です。

「ベルマーク集めはしんどいと感じている人に、楽しんでもらえるように気づいてほしい。子どもが主体的に関われる社会貢献を盛り上げたい、その思いもあり、小さなベルマークは人々、社会をつなぐいくつではないか、そんな気がしています。」



相模原市立九沢小の「ベルベルくみ」にマークを手渡す6年生



石神井台小のマーク集め封筒と手作りの消しゴムハンコ



「ベルマークだより」を編集する東広島市立八本松小学校ベルマーク部4年部の皆さん



2014年の優秀賞、16年の佳作に続き3度目の入賞で、優秀賞に返り咲きました。今伊勢西小学校(田中圭祐校長、454人)は、ボランティアの「ベルマーククラブ」が活動を続けています。

## 優秀賞

## 一宮市立今伊勢西小学校

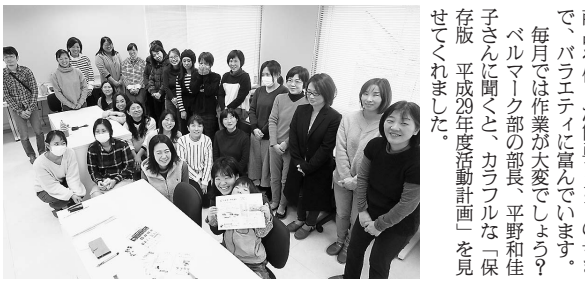
## 大事なことを手書きの文字で

「子どもにも読めやすいように文字数を少なく、挿絵を入れて、大事なことをお伝えするよう心がけています。一昨年4月にパソコンから手書きにしました。反響が大きくなり、関心を寄せてくれる人も増えたと感じています。」

オリジナルキャラクターの「ベルマーク君」をサンタクロースに変身させるなど、季節感にも配慮しています。毎月欠かさず発行している点や大事な情報が強調してある点も審査で評価されました。ボランティアの人数も増えて今年度からテラパックの回収も始めました。一昨年、回収箱を「ベルマーク君」の家の形に変えてから、インクカートリッジも多く集まるようになりました。

お買い物商品も先生たちが児童にアンケートをとって決めています。授業だけで使うのはもったいない、と毎学期、休み時間に買った品物で遊べる「ベルマーク感謝祭」の時間を設け、百人一首や坊主めくり大会を催してきました。小森さんは「ベルマーク新聞やHPで少人数の学校でもたくさん集めることができ、もってこい出来てきた」と意欲的です。

林孝子教頭は「活動に感謝しています。感謝状や購入希望アンケートなど、みんなが気配りして下さる事がベルマーク便りを通して皆さんに伝わっていると思います」と受賞を喜んでいます。



「わざと」パターンを変えずに、必要な情報どこにあるかが一目で分かるように心がけました。佳作に選ばれた東京都練馬区立石神井台小学校(海老原誠校長、581人)の「父母と教職員の会」(児童活動部)の田中晶恵・前部長(原田佳佳・前部長)は、編集の担い手として活躍しています。

## 佳作

## 練馬区立石神井台小学校

## 編集方針は「必要な情報が一目で」

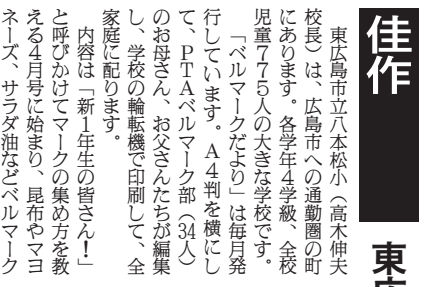
力を入れているウェブベルマークに紙面の半分を割きました。3月の臨時号には、1年間活動を続けたいと協力してくれた人たちに感謝の言葉を込めました。

年3回の集計は平日の午前中、毎朝30人がボランティアで集まっています。根拠となる作業集計表は、「集まってワイワイ話しながらやるのが楽しい」と人気です。

取材にうかがったのは、マークの回収に合わせて6月、9月、12月、2月の4回、それに3月に臨時号を発行しています。6月号では初めてベルマーク活動に参加する人たちに向け、「ベルマーク」とは「をやさしく解説しました。9月、12月、2月号では、新しい協賛会社や活動の成果を説明し、ベルマークのイラストを添えて回収日を大きく表示、新たにスタンプも手作りの消しゴムハンコです。ベルマークをあらうたり、協賛会社のキャラクターを登場させたり、「楽しんで集めてほしい」という願いのこもったスタンプがたくさありました。新作はまだまだ出来そうです。

回収日の案内にはベルマーク日より以外でも知恵を絞ります。回収封筒に日時を入れたら大好評。期日が迫ると給食時間の校内放送でベルマーククイズも出題しました。

シンプルで楽しく工夫がいっぱい。石神井台小スタイルはこれからも受け継がれていきます。



東広島市立八本松小(高木伸夫校長)は、広島市への通勤圏の町にあります。各学年4級、全校児童775人の大きな学校です。「ベルマークだより」は毎月発行しています。A4判を横にして、PTAベルマーク部(34人)のお母さん、お父さんが編集し、学校の輪転機で印刷して、全家庭に配ります。

## 佳作

## 東広島市立八本松小学校

## 4月時点で年間の編集当番を決定

「ベルマークだよりの発行」の予定表がありました。「4月：部長と副部長、5月：6年部A、6月：1年部」のように、学年ごとの輪番が書いてあります。4月時点で、当番は年に一回か、2回です。自分たちの月に合わせて予定とテーマを考えておけばいいので負担は軽くなります。

「仕分け・集計」は年に5回あります。取材に訪ねたのは12月の集計日でした。お母さん、お父さんが学年ごとのテーブルで、点数を計算し、協賛会社の整理袋にマークを入れていきます。

集計は1時間余りで終わりましたが、今回は1万7359・5点です。早急で、ベルマークだより12月号の原稿に数字を書きこみ、レイアウトは、台紙の上に、イラストや写真のコピーを切ったものを、「ここに置く」といって考えます。この号はインクカートリッジ回収がテーマで、校舎の階にある回収箱の位置を写真と略図で紹介しました。

紙面デザインが決まると、複写して原紙の出来上がりです。毎月発行の秘密がよく分かります。校区内には住宅が多く、同じ学校でも保護者が近所とは限りません。ベルマーク部は話しながら作業ができて、ここで親しくなる人も多そうです。



初めての応募で佳作に選ばれた。相模原市立九沢小学校(田中秀樹校長、587人)の「ベルマークくみ」は、ボランティアの「ベルマークくみ」6人が発行しています。PTA本部役員も後任の橋本奈保美さん(写真右端)がPTA本部役員に立って、子どもたちや学校の役に立つことを目指しています。4月には新入生の稲本静江さんを中心に、一昨年7月に活動を始めました。

## 佳作

## 相模原市立九沢小学校

## 役員退任後も学校のためにと結集

「全員が好奇心旺盛でクリエイティブ、児童を学校を思う人一倍強い気持ち」にあらわれている、と田中校長のメンバー評です。アイデアが浮かぶや、すぐさま行動に移す姿勢は、「感謝の気持ちでいっぱい。ただボランティアなので無理をせず、家族第一でやってほしい」と心配するほどです。

「ベルマークくみ」の由来は、子どもが宝物を探るようにベ

ルマークを楽しくみながら見つけてほしいという願いからつけました。書記の羽野純子さんが作っていました。イラストを多く使っています。伝えたいことが簡潔にまとまらないうえ、レイアウトがきれいな点も特徴です。4月には新入生のための特別版「ベルマーク始めました」も発行して、ベルマーク運動の推進に力を注ぎました。

月に1回の活動は、各クラスに置いてある回収箱を集めることから始まります。約4時間、和気あいあい作業します。

学校の空廊下にはベルマークコーナーがあり、手書きの回収箱、初めにベルマークで印刷した各クラスのミニソフトボールの贈呈式の写真を飾られています。マークを集めてくれる児童への感謝の気持ちも書いてあります。「ベルマークくみ」創立1周年を記念して、ゆるキャラも作りました。ベルガ(白耳丸)のオス、「べるん」です。尾びれ前は児童から公募しました。

「ベルマークを切るのが得意です。名前を見ながら来ました。稲本さんは「来られる時に来て、やれる人がやる」というやり方です。少しずつ子どもに浸透して長く活動していきたい」と言います。課題は活動費の捻出で、佳作の賞金もマークを財団に送る郵送料や紙代に充てていきます。

## 新しい試みに「便り」作り毎月発行

「ベルマーク活動で新しい試みをしてみよう。福岡県太宰府市の二日市カトリック幼稚園(竹内英次園長、園児164人)では、年度初めの保護者委員会です。決められた。その試みの一つが「ベルマーク便り」です。5月にB4判の第一号を出し、毎月発行を目指しています。

収集のしかた。点数の多いものやマークの紹介、集計作業参加の呼びかけなどを読みやすく載せています。待望の読み箱を運動会に間に合わせるように買えた成果を伝え、活動のモチベーションも高めています。

保護者会総会ではスライドを使い、紙バックやカートリッジの扱い方、ウェブベルマークを丁寧に説明し、好評でした。こちらも初めて発行した「保護者会通信」でも、ベルマーク運動を呼びかけてもらいました。こうした新しい試みには、保護者も深い情報の共有をしたという願いがあります。

役員15人のうち、ベルマークは太田良一(たらのう)美幸さんと渡邊陽子さんの担当です。「便り」にはまず感謝の思いを込めているそうです。ベルマーク一覧表と「あつ、これにもマークが」と気づく時があります。ベルマークが購入すると金額の1割が返ります。子どもたちの支援につながりたい。「そこをわかりやすく伝えたい」と渡邊さんは話します。その甲斐あってか、「便り」を出し始めてからマークも少しずつ増えています。激励の添え書きがなかったり、「同じ会社番号、同じ点数をテープで貼って出してもらった」といって「便り」の反響を実感しています。

日々の活動は、幼稚園の玄関に回収箱を置き、園児は回収袋を渡しています。集計は9月と2月の年2回、役員と各クラスのベルマーク係を中心に作業します。年に数万点が集まります。「家庭で無理のない範囲でマークを仕分けてもらえよう呼びかけようか」と思っています。太田良さんと渡邊さんは話しています。そして「便り」のファンをもっと増やしたい。

## 特別賞

## 私立二日市カトリック幼稚園